

OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学报 第224号 2010年4月6日

OCHADAI GAZETTE April, 2010



あなた自身を拓く、お茶の水女子大学

CONTENTS TOPICS

学長からのメッセージ	1
お茶の水女子大学の教育がさらなる発展を遂げます	3
平成 21 年度卒業式 学長告辞	5
イベントカレンダー (2010 年度)	7
研究表彰等受賞者一覧 (2009 年度)	8
メディア報道記録 (2009 年度)	9



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

学長からのメッセージ



新入生のみなさま

ご入学おめでとうございます

お茶の水女子大学へようこそ

お茶の水女子大学のキャンパスに新たなメンバーを迎える春になりました。皆様を心から歓迎いたします。

お茶の水女子大学は、
「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現する場として存在する」

というミッションを掲げていますが、学生も、そして教職員も、それぞれの未来を拓き、夢を実現するための豊かな時をこの場で過ごされますように願っています。

大学は、学校教育の最終段階として社会性を育成する場でもあります。そのために、お茶の水女子大学は常に社会状況と社会的要請を意識し、これを教育と研究に反映させるように努めてきました。平成16年の法人化以降6年間にわたる第一期中期目標・計画期間での国立大学法人ランキングのベスト5に本学が位置づけられたのは、こうした社会的要請に対する積極的な取り組みが評価されたものといえます。

このときに忘れてはならないことは、創設以来135年間にわたって培われてきたお茶の水女子大学の確固とした教育研究の実績があつて、はじめて新しい取り組みは実のあるものになりうるということです。確かな知を学び、問題を発見する批判的精神を鍛え、新たに世界を切り拓くための教育と研究をお茶の水女子大学は堅実に実践して来ました。この姿勢をこれからも大切にしてゆきたいと考えています。

お茶の水女子大学は学生と教員の距離が近く、学生同士も親しく切磋琢磨できる環境を維持してきました。この大学に集うすべての学生が、見識ある社会人となる力を携えて次のステップに果敢に挑戦していただきたいと思います。

お茶の水女子大学長
羽入 佐和子



学長からのメッセージ

お茶の水女子大学の教育がさらなる発展を遂げます

お茶の水女子大学では、平成19年に全国に先駆けて全学一体型の大学組織「人間文化創成科学研究科」を発足し、附属校園から大学・大学院までを見通した、21世紀の女性の人材育成に取り組んでいます。また、充実した教育カリキュラムを進めるために全学教育システム改革推進本部を設置し、新しいタイプのAO入試の導入や、文理融合リベラルアーツを基礎とした専門基礎力の育成をはかっています。

全学一体となった学部教育

1. 文理融合リベラルアーツ

－自在に(リベラル)つかえる技(アーツ)－

「文理融合リベラルアーツ」では、文系理系にまたがる5つのテーマ(生命と環境、色・音・香、生活世界の安全保障、ことばと世界、ジェンダー)にそって、講義・討論・発表・演習・実験・実習を組み合わせた系列科目群をつくり、自然・人文・社会の3つの角度から多面的に学びます。そして、演習・実験・実習を通じて、読み・聞き・書き・語り・作るという5つの能力を養成します。

5つのテーマは、いずれも21世紀の世界の鍵となるテーマです。どの系列でも文理双方から問題を問いかけ、ここを切り口として知識と経験を広げ、主題を根源から理解していきます。このような教育プログラムは、ひとつのキャンパスに人文学、社会科学、自然科学の3つの系列の教員が集うお茶の水女子大学だからこそ可能となります。

文理融合リベラルアーツ

<http://www.ocha.ac.jp/la/>



2. 「出る杭」を育てる

～企業で女性が輝くための学生支援～

平成20年度から継続するプログラム「『出る杭』を育てる～企業で女性が輝くための学生支援～」(「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)」)は、大学入学後の早い時期から女性のライフスタイルを意識させることにより、企業への就職、さらに管理職への昇進をめざす学生への早期支援を行うものです。

具体的には、①OG就活ネットワークと②就職アドバイザーによる企業と学生のマッチングを行い、女性のキャリアパスのモデルを築いていきます。③働く力の証明となる「就活パスポート」を大学が発行し、また④企業とタイアップしてキャリアセミナーを開講して、女性が働き続ける力、さらに管理職に必要な意識と実行力を養成します。これらにより、就活する学生を直接に支援するとともに、将来、

指導的な地位で活躍する女性(「出る杭」)を社会に送り出します。

「出る杭」を育てる～企業で女性が輝くための学生支援～

<http://www.ocha.ac.jp/topics/h200716.html>

3. 新入生を対象とした情報教育

お茶の水女子大学では、情報リテラシー教育と情報スキルの向上に力を入れています。特に学部1年生を対象とした講習会では、少人数制のきめ細かな指導による初級情報教育を行います。平成22年度からは内容がより充実し、学生本人がパソコンの管理者であるという視点から、目的に応じてソフトウェアをインストールし、各種設定を行い、活用することを学習します。希望者にはノートパソコンを貸与する制度もあります。

パソコン活用室

<http://www.cf.ocha.ac.jp/myipc-pre/>

パソコン活用講習会およびノートパソコンの貸与について

http://www.ocha.ac.jp/topics/h220312_2.html

4. 大学院と連携した学部教育

大学院への進学やそこの教育と連携した教育プログラムを築きます。とくに理学部では、所属する学科をこえた卒業研究指導の体制をつくり、大学院における学際的領域(生命情報学など)の教育・研究へと展開できるカリキュラムを導入しました。

5. 附属図書館に新たなコーナーが次々誕生

附属図書館は、創設以来の歴史資料に加え、多領域にわたる先端的な学術情報を蓄積しています。また、リベラルアーツコーナーやラーニングcommons、キャリアカフェなど、学生のみならずにとって快適なコミュニケーションスペースも開設されており、新しい知的空間の場となっています。

附属図書館

<http://www.lib.ocha.ac.jp/>



お茶の水女子大学は、国立大学法人の発足にあたって、「学ぶ意欲のあるすべての女性の真摯な夢の実現される場」となることを目標に掲げ、下記のようなプログラムを実施しています。高校課程から大学院博士後期課程までを見通した専門的かつ実践的教育、少人数で高密度のまとまりのある大学教育を目指します。

本学の先進的教育・研究プロジェクト

1. 国際的な研究拠点の形成<グローバルCOEプログラム>

グローバルCOEプログラムは、日本の大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、世界最高水準の研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るために、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援し、国際競争力のある大学づくりを推進することを目的とした事業です。

格差センシティブな人間発達科学の創成（平成19～23年度）

<http://ocha-gaps-gcoe.com/>



2. 女性リーダーを創出する国際拠点の形成

—国際的に卓越した教育研究拠点機能の充実—

本学がこれまでに実践してきた「女性リーダー育成プログラム」の成果をふまえ、先進的学際的な分野を開拓する女性研究者を育成する国際的拠点形成を目的とし、リーダーシップ教育の理論構築や国際的ネットワークの構築を通じて、国際水準の女性研究者育成システムの構築を目指します。

女性リーダー育成プログラム

<http://www.cf.ocha.ac.jp/leader/w-leader/index.html>

3. 挑戦する研究力と組織力を備えた若手育成

（お茶大アカデミック・プロダクション）

科学技術振興調整費

「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」（平成19～23年度）

先端分野の優れた若手研究者が自立的な環境で、研究力、教育力、組織力を備えて、国際的な研究者として自立するように育成するプログラムです。

挑戦する研究力と組織力を備えた若手育成

<http://www.cf.ocha.ac.jp/acpro/index.html>

4. 文部科学省特別経費プロジェクト

国立大学法人は、基盤となる運営費のほかに、それぞれの大学法人が中期目標に掲げる計画やそれに基づく改革を推進するために「特別経費」を申請することができ、大学がそれぞれ特色ある教育や研究を進めています。

特別経費プロジェクトも含め、本学は下記のプロジェクトを推進します。

- 学生主体の新しい学士課程の創成
 - 21世紀型リベラルアーツと複数プログラム選択型専門教育—
- 多角的な学士力養成を担う総合的学修支援
- 理系女性の意欲と個性に根ざした複線的教育
- 多様な食育の場に対応可能な高度専門家の育成
- 学際生命科学東京コンソーシアムによる
 - 全人的大学院人材育成拠点の確立
- 異分野融合型疾患生命科学教育の国際連携
- 校風をつなぐ女性科学者の育成
 - 第二のマリー・キュリーをめざせ—
- 『理学する心』を持つ小・中学校教員の指導者養成
- グローバル社会における平和構築のための
 - 大学間ネットワークの創成
 - 女性の役割を見据えた知の国際連携—
- 附属学校園を活用した
 - 新たな学校教育制度設計に係る調査研究
- 乳幼児教育を基軸とした生涯学習モデルの構築
- 国際水準の女性科学者の育成
 - お茶大型ホップ・ステップ・ジャンプモデル

お茶の水女子大学の教育がさらなる発展を遂げます

平成21年度卒業式

学長告辞



皆様、ご卒業おめでとうございます。

今日ご卒業される皆様には、大学で学んだ一つ一つのことが将来の生活の確かな糧となりますように願っています。

また、ご家族の皆様、卒業生のこれまでの生活を支えられた周囲の皆様、心からお祝いを申し上げます。これまでのご苦勞に敬意を表しますとともに、お茶の水女子大学を大切なお嬢様が学ぶ場として評価いただき、ご支援いただきましたことに心から感謝申し上げます。

そして、この式典にご臨席のすべての皆様に深く感謝申し上げます。

四年間の時を過ごした学舎から旅立つにあたり、学生の皆様の心のうちには、明日への希望と未知の場所に向かう不安とが渦巻いていることでしょう。たしかに、いま皆様が新たな一歩を踏み出そうとしている社会は、経済状態も混沌としたままですし、決して見通しの明るいものではありません。ですが、皆様がこの大学で学んだことはいかなる場面でもきっと役立ち、そして支えとなるに違いないと確信しています。



なぜなら、分野を問わず専門的な学問を通して、常に知識を確認し、思考し、批判し、そして新たに創造することを、このお茶の水女子大学で皆様は学んでいらしたに違いないからです。とくに、卒業論文や卒業研究の過程でそれを強く実感したことと思います。

私自身この大学で学びました。授業やゼミや研究会での発表、友人や先輩との交流、そして先生方の厳しくも寛大なご指導を時に思い出しますが、学生時代のさまざまな経験が、事柄に対処するときの大きな支えにもなっています。

経済情勢も含めて、私たちが置かれる環境や出会う状況は常に変化してゆきます。その中で、状況を理解し、可能性を探り、判断することはいつの時代でも誰にも求められます。とくに高等教育を受けた者には、さまざまな場面で判断が委ねられる機会も多くあることでしょう。それに足る十二分な力を皆様が身につけてきたことを評価して、いま、学位を授与いたしました。

その力を携えてこれからは社会を先導して行っていただきたいと思えます。

お茶の水女子大学は、135年前に東京女子師範学校として創設された時から、60年前に、新制の国立大学となって今日に至るまで、一貫して、女性の高等教育と自立、そして社会への貢献を使命としてまいりました。そしてこの使命は、大学にかかわるすべての人々の並々ならぬ努力によって果たされ続けてきました。

創設された当時と今日との違いをあえて挙げるとすれば、かつて、教員として女性が経済的に自立し、同時に国の教育水準の向上に貢献することが求められていた時とは異なって、現在では、多様化する社会を、多様性のままに発展させ、知的な基盤を充実させ、学問を進歩させるための教育が重要になっているといえるでしょう。

さらに、その際に、女性も男性もそれぞれの能力を主体的に発



揮出来る社会の実現に寄与することも、今とくにこの大学に課せられている使命であるといえます。

国際的に目覚ましい経済発展を遂げ、教育水準や平均寿命の点で日本が世界の上位に位置しているにもかかわらず、女性の活躍の割合を示す指数では、世界 109 の国々の中で 57 位に位置しているといわれています。この問題を解決する方策が多岐にわたって検討されていますが、別の視点からいえば、この事態は、高等教育を受けた女性が活躍する場が多く残されていること、そして活躍が大きく期待されていることを示してもいます。

しかしながら、そのような場があらかじめ準備され、用意されているわけではなく、皆様一人一人がそれを見出し、開拓し、あるいは、自ら作り上げて行かなければなりません。そして、その努力によってこそ閉塞したように見える社会を、ゆっくりとではあれ、新しい方向に導き、始動させることができるのではないかと思います。

科学の急速な進歩と高度な技術の開発を基盤として、経済的な豊かさを実現し、生活の利便性を享受ながらも、その先が見通せない現代、皆様には大きな期待が寄せられ、多くの可能性が開かれています。

「人間において偉大な点は、それが一つの橋であり、目的ではないことである」(Was gross ist am Menschen, das ist, dass er eine Brücke und kein Zweck ist.) というニーチェの言葉があります。

私たちの日々の生活にあつては、必ずしも目的は明確ではなく、正解があるのでもなく、到達点が決まっているわけでもありません。社会は変化し、一つ一つの判断と決断によって歴史は刻まれ続けます。私たちは自らが置かれた状況の中で、それを解釈し、理解し、判断し、決断し、先へ進んでゆかなくてはなりません。その時に求められるのは、一人ひとりの知的な豊かさ人間とし

ての見識でありましょう。

ニーチェの言葉をさらに広く解釈すれば、人間は一つの「橋」のように、人と人とを結び付ける、文化と文化とを結び付ける、あるいは異なる事柄を相互に結び付ける存在であるということもできるかもしれません。そしてそれによって、人間の社会に新たな展開をもたらすことが期待されているように思われます。

社会は、経済状況に大きく左右され、人々の振る舞いもその影響を多く受けがちです。ですが、そのような中にあつても、皆様はこの大学で学んだことを心にとどめ、それを活かし、移りゆく時代の中に真理を見極め、一人ひとりが主体性をもってその力を発揮されることを大いに期待しています。

大学もいま、社会情勢の激しい変化の中で独自の存在感を発揮するよう求められています。大学を担う者として、私自身も今の時代の不易と流行をよく見定めて、お茶の水女子大学の本質を失うことのないように努力してまいります。それは決して簡単ではないと思いますが、関係する皆様のお力をお借りして、この大学の歴史を豊かに刻みたいと思います。

これまで学生でいらした皆様には、これからは大学のよき理解者、批判者として、大学を支えていただきたいと願っています。そして何より、皆様の「これから」が、お茶の水女子大学がお茶の水女子大学であり続けることを可能ならしめるのだと思います。

皆様が大学生活で刻んだお一人お一人の歴史が、時とともにいつそう豊かに実りゆくことを期待しています。

ご卒業を心からお祝い申し上げます。

平成21年度卒業式 学長告辞

イベントカレンダー

2010年度



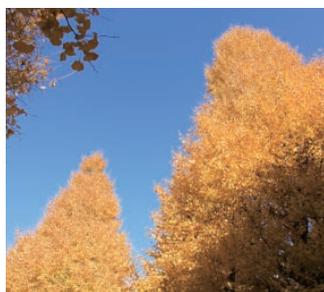
2010年

- 4月 6日 入学式
新入生オリエンテーション (6日、8~9日)
- 4月 7日 入学式 (附属小・中・高)
第1回TOEIC試験
- 4月 9日 附属幼稚園入園式
新入生セミナー (~10日)
- 4月13日 前学期授業開始
- 4月24日 大学院オープンキャンパス
- 5月19日 名誉教授称号授与式
名誉教授懇談会
- 5月29日 ホームカミングデイ
- 5月31日 開学記念日
- 6月30日 理学部編入学試験 (~7月1日)
- 7月 8日 理学部編入学試験合格発表
- 7月18日 オープンキャンパス (~19日)
- 8月 3日 前学期末試験・補講日 (~9日)
- 8月10日 夏期休業開始
- 8月13日 夏季一斉休業 (~17日)
- 8月26日 博士前期課程8月入試 (~27日)
- 9月 3日 博士前期課程入試合格発表
- 9月 5日 夏期休業終了
- 9月 6日 前学期末試験・補講日 (~10日)
- 9月 9日 博士後期課程9月入試 (~10日)
- 9月11日 夏期休業開始
- 9月17日 博士後期課程入試合格発表
- 9月30日 9月卒業式
夏期休業終了
- 10月1日 10月入学式
後学期授業開始

- 10月13日 文教育学部・生活科学部編入学1次試験
- 10月22日 A0入試 (~23日)
- 10月27日 A0入試合格発表
- 11月 4日 文教育学部・生活科学部編入学2次試験
- 11月11日 文教育学部・生活科学部編入学試験合格発表
- 11月13日 徽音祭 (~14日)
- 11月22日 永年勤続表彰式
- 11月26日 奨学金授与式
- 11月28日 推薦入学・帰国子女入試 (~29日)
- 11月29日 創立記念日
- 12月 9日 推薦入学・帰国子女入試合格発表
- 12月25日 冬期休業開始

2011年

- 1月 4日 新年賀詞交歓会
- 1月 5日 冬期休業終了
- 1月15日 大学入試センター試験 (~16日)
- 1月22日 大学入試センター試験 (追試) (~23日)
- 2月 2日 博士前期課程2月入試 (~3日)
- 2月 4日 後学期末試験・補講日 (~10日)
- 2月10日 博士前期課程入試合格発表
- 2月14日 第2回TOEIC試験
- 2月25日 学部入試 (前期) (~26日)
- 3月 2日 博士後期課程3月入試 (~4日)
- 3月 9日 全学送別会
- 3月10日 学部入試 (前期) 合格発表
- 3月11日 博士後期課程入試合格発表
- 3月12日 学部入試 (後期)
- 3月15日 附属幼稚園卒業式
- 3月16日 附属小学校卒業式
- 3月17日 附属中学校卒業式
- 3月18日 附属高等学校卒業式
- 3月20日 学部入試 (後期) 合格発表
- 3月23日 卒業式
- 3月25日 永年勤続表彰式



研究表彰等受賞者一覧

2009 年度 (抜粋)

(1) 教職員

- ① 日本保健物理学会 学会賞 (論文賞)
大学院人間文化創成科学研究科
ラジオアイソトープ実験センター
副センター長 古田悦子講師
- ② 第 31 回日本臨床栄養学会総会
第 30 回日本臨床栄養協会総会
第 7 回大連合大会 若手奨励賞
生活環境教育研究センター
谷真理子研究機関研究員
- ③ 2009 年度 グッドデザイン賞
(生活領域 / 戸建住宅・集合住宅)
ユビキタスコンピューティング実験住宅
"Ocha House"
人間文化創成科学研究科
椎尾一郎教授
太田裕治准教授
元岡展久准教授
- ④ 平成 21 年度文部科学大臣賞
(原子力・放射線安全管理功労表彰)
大学院人間文化創成科学研究科
古田悦子講師
- ⑤ 文部科学大臣賞
「平成 21 年度学校給食 120 周年記念表彰」
「日本栄養士会 50 周年記念感謝状」
大学院人間文化創成科学研究科
山本茂教授
- ⑥ 人文地理学会の学会賞 (論文部門)
大学院人間文化創成科学研究科
木村オリエ研究員
- ⑦ The fourth Asian Pacific Conference on
Theoretical & Computational Chemistry
(APCTCC-4) Best Poster Award
お茶大アカデミック・プロダクション
森寛敏特任助教
- ⑧ 文部科学省「教育者表彰」
附属小学校 松木正子教諭
- ⑨ 平成 21 年度文部科学大臣優秀教員
附属中学校 栗原恵美子教諭
- ⑩ 教育メディア・教育工学系 国際会議
AACE ED-MEDIA 2009
人間文化創成科学研究科 刑部育子准教授

(2) 在学生

- ① IEEE Visualization Best Poster Award
大学院理学専攻 白鳥佳奈さん
- ② 「第 13 回個人研究助成費」採択
(財団法人東海ジェンダー研究所)
大学院比較社会文化学専攻 英美由紀さん
ジェンダー学際研究専攻 大野聖良さん
- ③ 第 22 回全日本高校・大学
ダンスフェスティバル「神戸市長賞」
芸術・表現行動学科舞踊教育学コース
作品:『カミュー・クローテール・ロダンの影』
- ④ 情報処理推進機構
「未踏コースクリエータ」採択
大学院理学専攻 中川真紀さん
大学院理学専攻 沖 真帆さん
- ⑤ 第 3 回「ことばと教育」研究助成 優秀賞
大学院国際日本学専攻 高橋薫さん
- ⑥ 2009 年度 グッドデザイン賞
(ネットワーク領域 / デジタルコンテンツ)
比較社会文化学専攻 馬場幸栄さん
- ⑦ 第 16 回 日本未病システム学会学術総会
研究奨励賞
大学院ライフサイエンス専攻
岸本良美さん
大学院ライフサイエンス専攻
杉原規恵さん
- ⑧ 第 19 回日本メイラード学会
若手研究者奨励賞
大学院ライフサイエンス専攻
能見祐理さん
- ⑨ 第 7 回航空機による
学生無重力実験コンテスト採択
理学部化学科 藤田彩さん、芦川博美さん
- ⑩ 第 17 回インタラクティブシステムと
ソフトウェアに関する
ワークショップ ソネット賞銅賞
大学院理学専攻 半田智子さん
表彰作品:「なめらカーテン」
- ⑪ 日本生活習慣病学会優秀演題賞
大学院ライフサイエンス専攻
西垣結佳子さん
大学院ライフサイエンス専攻
阿隅美保子さん

- ⑫ データ工学と情報マネジメントに関する
フォーラム 学生奨励賞
理学部情報科学科 野澤佳世さん
理学部情報科学科 林亜紀さん
- ⑬ IEEE Pacific Visualization Symposium 受賞
大学院理学専攻 五味愛さん

(3) 本学出身者

- ① 第 66 回全国舞踊コンクール受賞
舞踊教育学コース卒業 山口華子さん
- ② 第 17 回 福原賞受賞 (研究助成部門)
大学院人間文化研究科
比較社会文化学専攻修了
市川千恵子さん
- ③ プログラム奨学生博士の学位を取得
2006 年にアジアでただ 1 人、欧州連合 (EU)
科学技術フェローシッププログラム (マリー・
キュリープログラム) の EPISCON (European
PhD in Science for Conservation) 奨学生
となった林美木子さん (大学院博士前期課
程ライフサイエンス専攻 2006 年修了) が、
イタリアポローニア大学に在籍しイタリア国
立研究樹木・木材研究所、文化財研究所、
並びにルーマニアのアレキサンドル・イオ
ン・クーザ大学で研修を重ね、「板絵の保存
処理に係わる化学、物理、構造的特性の研究」
という研究題目で博士の学位を取得。
- ④ 山川菊栄賞
本学卒業生の西倉実季さんが、博士論文を
もとにして刊行した著書「顔にあざのある女
性たちー「問題経験の語り」の社会学」(生
活書院) で、山川菊栄賞を受賞。



メディア報道記録

2009年度(抜粋)

2009年4月5日 朝日新聞

きょういく特報部2009

全国学力調査 教委アンケート

年ごとに教科変えても 耳塚寛明理事・副学長

2009年4月17日 産経新聞

金曜討論 小学校での英語教育

母国語しっかり学ぶ時期 藤原正彦名誉教授

2009年4月21日 日刊工業新聞

「知の市場」コンソーシアム進展 社会人向け72科目開講

2009年4月24日 日刊工業新聞

生命の学際研究

東京医科歯科大学、お茶の水女子大学、

学習院大学、北里大学によるコンソーシアム設立

2009年5月28日 読売新聞

世界教育事情 日本女性が築いた名門校

女子高等師範学校で教鞭をとっていた

安井てつによって設立されたタイ「ラチニースクール」

2009年6月12日 朝日新聞

「味」「知」競うキャンパス食品

逸品続々、研究室から 学生サークル Ochas

2009年6月13日 読売新聞

大学ミニ情報

お茶の水女子大学にてTFTの取り組みを開始

学生サークル Ochas

2009年6月23日 毎日新聞

ひょうたんから駒 大学発化粧品続々

新薬開発目指す研究から誕生

室伏きみ子教授

2009年6月28日 朝日新聞

仕事と家庭 遠い両立

課題は非正社員含めた底上げ必要 永瀬伸子教授

2009年7月4日 東京新聞

上手に忘れて妙想浮かぶ 外山滋比古名誉教授

2009年7月5日 朝日新聞

紀子さまシンポに出席

お茶の水女子大学主催国際シンポジウム

「お母さんと子どものために～私たちができること」

2009年7月6日 産経新聞

息子からみた「劔岳 点の記」 藤原正彦名誉教授

2009年7月7日 読売新聞

教育ルネサンス 市民力を鍛える

シチズンシップ教育を導入している主な学校

お茶の水女子大学附属小学校

2009年7月8日 読売新聞

大学の实力調査 東日本編①

大学選びのヒント50項目

2009年7月10日 毎日新聞

キャンパス

OGが仕事や学生時代語る -お茶の水女子大学-

2009年7月14日 読売新聞

第2回「大学の实力」調査から①

83%が「保護者会」実施

2009年7月14日 読売新聞

思考整理には「忘却」が大切 外山滋比古名誉教授

2009年7月27日 朝日新聞

理系目指すなら女子大へ 少人数教育 きめ細かい指導PR

2009年8月3日 朝日新聞

東大・京大で昨年最も読まれた「思考の整理学」

外山さん「忘却こそ大切」 外山滋比古名誉教授

2009年8月5日 朝日新聞

寄稿 日本に暮らす 楊逸さん(卒業生)

2009年8月5日 日本経済新聞

世帯年収で成績格差

奨学金など支援充実を 耳塚寛明理事・副学長

2009年8月7日 日刊工業新聞

改革に挑む 大学この人に聞く

統合・全体的視点で業務運営

“9時-5時勤務”貫く 羽入佐和子学長

2009年8月10日 日本経済新聞

インタビュー 領空侵犯

政策のプロを結集せよ 土屋賢二教授

2009年8月24日 朝日新聞

実効性ある改革へ じっくり議論を 耳塚寛明理事・副学長

2009年8月28日 毎日新聞

全国学力テスト

何らかの調査必要 耳塚寛明理事・副学長

2009年9月13日 毎日新聞

早期教育の是非めぐり意見交換

2009年10月11日 東京新聞

「この人」 外山滋比古名誉教授

2009年10月18日 朝日新聞

感染した受験生に追試

新型インフル 国立8大学が救済策

2009年10月18日 朝日新聞

きょういく特報部2009

切り離せぬ財源問題 耳塚寛明理事・副学長

2009年11月5日 産経新聞

学園祭 新型インフル“来場”お断り

2009年11月9日 日本経済新聞

キャリアの軌跡

主婦20年、子育てを終えて 吉村美栄子山形県知事(卒業生)

2009年11月13日 毎日新聞

新幸福論 生き方再発見

こだわりを捨てて、自分を笑い飛ばす。 土屋賢二教授

2009年11月20日 東京新聞

日台女子校交流

台北市立第一女子高級中学が

お茶の水女子大学附属高等学校を訪問

2009年12月3日 朝日新聞、ほか

悠仁さま お茶の水女子大学附属幼稚園へ

2009年12月4日 毎日新聞

キャンパス

哲学者・土屋教授がジャズライブ お茶大徽音祭

2009年12月12日 朝日新聞

フロントランナー

授乳服が女性と社会をつなぐ 光畑由佳さん(卒業生)

2009年12月21日 毎日新聞

私のスタイル

使い手考え 妥協せず 上田菜穂さん(卒業生)

2010年1月9日 毎日新聞

理科実験や授業法 先生に教える先生

7大学でコア・サイエンス・ティーチャー養成

2010年1月18日 日本経済新聞

キャリアの軌跡

自立心で仕事を開拓 中村文子さん(卒業生)

2010年1月29日 毎日新聞

インタビュー 急接近

子どもは減っていくのでしょうか? 本田和子名誉教授

2010年2月2日 朝日新聞

特集 健康を考える

動脈硬化予防にポリフェノール 近藤和雄教授

2010年2月13日 毎日新聞

ヘルシーレポート

身近にポリフェノール摂取 近藤和雄教授

2010年2月13日 読売新聞

教育ルネサンス 楽しい図書館

お茶飲み 気軽に会合

2010年2月17日 読売新聞

着物で仕事 工夫次第

石田かおりさん(卒業生)

2010年3月1日 毎日新聞

私のスタイル

人のつながりを大切に 八代夕紀子さん(卒業生)

2010年3月2日 産経新聞

コーヒーからポリフェノール

心だけでなく体も癒す 近藤和雄教授

2010年3月5日 日本経済新聞

子育て、大学が応援

都内自治体、人材・施設を活用

2010年3月25日 朝日新聞、ほか

国立大、初の順位付け

お茶の水女子大学は5位

メディア報道記録
2009年度(抜粋)



平成 21 年度卒業式

お茶の水女子大学学报 第 224 号

▽発行日：2010 年 4 月 6 日

▽発行：国立大学法人お茶の水女子大学

東京都文京区大塚 2-1-1 (〒112-8610)

ご意見・ご感想はこちらまで

学術・情報機構広報チーム

電話 03-5978-5105

FAX 03-5978-5545

E-mail : info@cc.ocha.ac.jp

URL : http://www.ocha.ac.jp/